

編集後記

先月号の「ある日の育児日記から」を読んでいて、一歳五か月のLが、耳のことを「メメ」と言っていたことが思い出されました。

お誕生祝いにいただいた動物の指人形はLのお気に入りです。Lは各々の耳をつかんで「メ、メ」と動かすのです。はじめ私は、目と耳を混同しているのではないかと思い、「おみみは？」と聞いてみると、Lは自分の耳をつかむだけでなく、「メメ」と言うのです。そこで、この人形をよく見ると、サル、ブタ、ウサギ、ネコ、クマの各々の特徴をとらえて、耳のついている位置、大きさ、形、色などが微妙に違えてあるので

す。にもかかわらず、それらをひとまとめにして「メメ」と言うのは、Lなりに各々の耳に共通する特徴を見い出してこの「メメ」ということばを使っているからでしょう。そこで、私はLにとって「ミミ」より「メメ」の方が発音しやすいのだからと思うことにしました。

それから随分たって、本のなかでNに出会ってハッとしました。Nはまわりの大人が言っている「わんわん」がスピッツのことだとわかっているのに「ニャンニャン」と言っているのです。このNの例をあげて、岡本夏木は、自発的使用語と理解語の二つの発達かなり独立して進むと言っているのです。「メメ」が自発的使用語だからというほうが言いやすいからという理由より、私を納得させるものでした。

(A)

幼児の教育

第九十五巻 第十号

(一九九六年十月号)

定価四五〇円(本体四三七円)

発行 平成八年十月一日

編集兼発行人 田代和美

発行所 日本幼稚園協会

〒112東京都文京区大塚二一―一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

印刷所 図書印刷株式会社

〒108東京都港区三田五一―二一

発売所 株式会社 フレーベル館

〒113東京都文京区本駒込

六一―四一九

☎〇三―五三九五―六六一三(営業)

☎〇三―五三九五―六六〇四(編集)

振替 〇〇―一九〇―二一九六四〇

☆ 本誌ご購入のご注文は発売所「フレーベル館」にお願いします。

☆ 万一、乱丁・落丁などがございましたら、おとりかえいたします。